



JSQC ニュース

No.291

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (助日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス QMS有効活用及び審査研究部会の活動について
- 2-私の提言 何が出来るかを問おうではないか
- 2-研究会だより 医療経営の総合的「質」研究会
- 3-第38年度品質管理推進功労賞推薦のお願い/1月の入会者紹介
- 4-行事案内/事務局からのお知らせ/論文募集

QMS有効活用及び審査研究部会の活動について

部会長 福丸 典芳

1. 部会の機能

当部会は次に示す機能を持っており、部会員の積極的な参画によってQMSに関する研究活動を定期的に行っています。

①審査登録制度に関する情報の評価・分析、②審査登録制度に関するサポート技術の開発、③QMSの審査技術に関する要素の開発、④QMSの維持・改善に関わるツール及びガイドの開発、⑤会員同士の情報交換の場

2. 部会の活動経緯

当部会はQMS審査の質向上を目指し審査登録機関の協力を得て、2005年6月に設立しました。当研究部会のメンバーは、QMS審査員及びQMSの運営管理に携わっている組織の人々からなり、審査員の視点及び受審側の視点からの両面性を考慮した研究活動を開始しました。

第一期活動は5つのWGで約2年間の研究活動を行い、シンポジウムや学会研究発表などを通じて、研究成果を報告し、一定の成果を得ることができました。しかしながら、QMS審査に関する制度の変更、審査の信頼性及びISO9001の運営管理が形式的に行われているなどの観点から見ると改善すべき課題がまだ数多くあるので、第一期の研究成果をもとにこれらの検討課題に対してさらなる研究が必要との認識をし、2008年6月から第二期活動を開始しました。

3. 第二期活動の概要

第二期活動は、次の6つの研究テーマに取り組んでいます。

WG1は、前期からの継続研究テーマである「QMS有効性の向上に役立つ審査」(QMS審査技法シートの開発や有効性審査に関する研究)、WG2は「次世代対応のQMS構築と審査技法」(組織環境に対応したQMSの運営方法とIT化に対応した審査技術に関する研究)、WG3は「プロセスの順序と相互関係の表わし方」(組織にとってプロセス及びその関係性はどのように考え、どのように論理的に体系づけるべきかに関する研究)、WG4は「マネジメントの原則から見た統合審査技術」(QMS及びEMSの強み・弱みの評価方法やプロセスの見える化などの審査技法に関する研究)、WG5は「ISO9001経営層、推進組織(管理責任者、事務局の役割も含む)のあり方」(組織の成熟度に応じたISO9001活用の役割とその方法論に関する研究)、WG6は「マネジメント原則の本質の研究、マネジメント原則に基づいたQMS(マネジメントシステムの基盤として)の研究及びこれらの普及」(マネジメントシステムの8原則とISO9001との関係に関する研究)に関する研究活動を行っています。これらの研究会のアウトプットとしては、研究発表会への参加、シンポジウムでの発表、又は書籍の出版などを通して、研究成果を公表していく予定です。

現在、研究活動は、1回/月の土曜日の午後に行っており、その進め方は、各WGのリーダーを中心として、それぞれの研究テーマに基づいて研究メンバー各自が調査・研究した内容についてWG内で発表・議論し、そこから得られた新しい概念や方向性を取りまとめ、さらに精度を向上させています。これらの内容は部会内で定期的な発表を行い、他の部会メンバーからの意見を集約し、さらに研究を進めています。今期は2009年3月に部会内での報告会(非公開)を開催する予定です。なお、学会員に対しては、第二期の研究内容に関して中間報告を行う目的で、2009年5月に開催される第89回研究発表会で発表する予定です。

部会メンバーの時間的都合や研究するテーマが提案されなかったことで、第二期の研究テーマに参加できない部会メンバーは、QMSに関するトピックスについての年2回程度の特別講演への参加や部会内での発表会へ参加することで部会活動への参加をしています。昨年は、ISO9000ファミリーの規格開発動向についての講演、また、今年1月にはISO17021に関する動向についての講演を開催しました。

4. 当部会メンバーへの参加のお願い

以上のような研究活動を通じて、QMSの発展につながる事が当部会の使命と考えていますので、賛同される方がいらっしゃいましたら当部会への参画をお願いします。

● 私 の 提 言 ●

何ができるかを問おうではないか

前田建設工業(株) 村川 賢司



挑戦する人たち
世界同時不況
の震源地となっ
た米国で、オバ
マ氏は“**Yes,
we can!**”に象
徴される旗印の

もついで大統領選へ臨んだ。そして、100年に一度と称される経済危機打開のために超党派で景気対策に汗する人たちの姿を映しだした報道に、人材の大切さを垣間見た。

OECD（経済協力開発機構）は、国や地方自治体から教育機関へ公的に支出される予算のGDP（国内総生産）に占める割合が、加盟30カ国のうちデータがある28カ国中で日本が最下位であると2005年の調査結果を報じている。経営環境のきびしさに我を忘れそ

うな気配を察する昨今、“教育に始まり、教育に終わる”という文化のもとで長期的な視点から日本が拠り所とする人へ投資してきた教育の大切さを見失ってはならないと思う。

日常管理と方針管理

日常の仕事の大半は各々の人が行うべき役割をきちんと果たす日常管理という基盤のうえで、経営戦略を実現するための方針管理が活きることは周知の事実である。品質にかかわる信頼感や安全を失うようなクレームや事故は、先が見通せない経営環境において致命的であり、このような時こそ足元をしっかりと固める意志と施策が求められる。

品質マネジメントの原則

品質を中核にした経営において重視する原則として、“顧客重視”、“リ

ダーシップ”、“人々の参画”、“プロセスアプローチ”、“マネジメントへのシステムアプローチ”、“継続的改善”、“意思決定への事実に基づくアプローチ”、“供給者との互惠関係”を世界が共有したことは重要な転換点を示唆した。この原則を、経営層から職場第一線、またすべての部署に浸透する品質管理教育を誰もが苦しいときにも忘れなければ、暗いトンネルから出たときの飛躍への強固な基盤となることは先人が教えている。

何ができるか

ケネディ大統領は、東西冷戦の緊張下で臨んだ1961年の就任演説で米国民へ“あなたの国家があなたのために何をしてくれるかではなく、あなたがあなたの国家のために何ができるかを問おう”と呼びかけた。品質へ原点回帰し、“あなたがあなたの組織や社会のために何ができるか”を考え、そしてその志を実現できる人づくりに努めることが問われているのではなかろうか。

研究会
だより

医療経営の総合的「質」研究会

医療の七つ道具の開発進捗状況について

主査 永井 庸次（株）日立製作所水戸総合病院院長

一昨年10月に主査を拝命してから瞬く間に1年が経過しました。月1回土曜午前の2時間千駄ヶ谷に通う日々が続いております。副査の飯田修平先生を始め、委員数は26名の小規模の研究会ですが、常時15名前後が出席し、産業界の経営者・質管理者、アカデミックな質研究者、医療界の経営者・質管理者が各々の観点から活発な議論を続けております。

一昨年度からの主要テーマとして、産業界における「QC七つ道具」、「新QC七つ道具」に匹敵するような医療分野におけるTQM七つ道具（略して「医療の七つ道具（仮称）」）の開発に積極的に取り組んでおります。計画ではそろそろ出版準備中になっているわけですが、六つまではある程度候補は煮詰まってきたものの、最終的に七つ目のツールとして「まあ、いいか」という意図的な「不遵守」対策をどのように取り扱うかで議論が行き詰まり、現在アンケートを実施して、問題点を整理している最中です。残

りの六つに関しては、現在各委員が分担執筆中であり、この場で公表してもよろしいのですが、まずは発刊された本を見てのお楽しみとしてとっておきたいと思っておりますので、平にご容赦をお願いする次第です。

また、本研究会はその他に、「医療機関におけるTQM普及を促進する医療制度・政策のありかたの提案」と「TQMに基づく病院建築に伴う質保証の現状の把握」を研究テーマとしてあげております。前者に関しては、今回発刊される予定の新版「品質保証ガイドブック」において、医療分野の項を主査、副査2名で分担執筆しましたし、各委員が各種団体（特に全日本病院協会）主催の「医療安全管理者養成講座」において講師を務めております。後者に関しては、主査・副査ともに病院を新築中・新築直後のこともあり、「病院建築における質保証とは」という重い課題に関して、現状分析中であります。

第38年度 品質管理推進功労賞： 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第8回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：

以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

- 1) 企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
- 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

本年度選考方針：

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名以内とする。
- b. 地域・社会への貢献を重視する。
- c. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避ける。
- d. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- e. 女性に対する配慮を積極的に行う。
- f. 38年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。

評価項目：

本賞の候補者に対して、主に次の観点から評価を行う。

【A】所属組織への貢献

- a 1 TQC/TQM/標準化/QCサークル活動等の推進
- a 2 品質管理に関する表彰・認証等の受審支援
- a 3 品質保証体制の確立
- a 4 その他特筆すべき活動

【B】地域・社会への貢献

- b 1 日本品質管理学会の発展
- b 2 デミング賞委員会/品質月間/関連学会等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 3 標準化推進を通じた品質管理の普及・発展
- b 4 QCサークル活動の普及・発展
- b 5 日科技連/規格協会等の関係諸団体への協力を通じた品質管理の普及・発展
- b 6 品質管理に関する国際協力
- b 7 品質管理への深い造詣に基づく著作等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 8 その他特筆すべき活動

推薦必要書類：

推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、ここで上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。）

様式については、下記Web頁よりダウンロードしてください。

URL：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou.html
業績リスト（様式219-2）の業績については、上記の評価項目に対応した記述にしてください。

推薦締切：2009年6月30日(火)

メール送付先：2009kourou@jsqc.org

選考：(社)日本品質管理学会 品質管理推進功労賞選考委員会が行う

発表：9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知

表彰：2009年10月31日(土)

本学会 年次大会 授賞式

連絡先：(社)日本品質管理学会事務局

参考：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou.html

2009年1月の入会者紹介

2009年1月28日の理事会において、下記の通り正会員15名、準会員3名、賛助会員1社の入会が承認されました。

.....
(正会員15名) ○大垣内 滋 (永島製作所) ○柴崎 信美 (日立ハイテクマニファクチャ&サービス) ○飯田

尚弘 (アスモ) ○富樫 勤 (ナブテスコ) ○加藤 久佳 (愛知製鋼) ○山浦 木の実 (富士ゼロックスエンジニアリング) ○右色 雅子 (東日本旅客鉄道) ○長尾 健司 (香徳会) ○神山 貴和 (大明) ○土肥 稔幸 (ギャラクシー) ○桑名 信幸 (三景) ○影山 敏一 (富士ゼロックス) ○山田 耕一 (パナソニック電工) ○田中 健太 (ブリヂストン) ○米田 健司 (カネカ)

(準会員3名) ○中村 輝昭・三ツ木 聡 (電気通信大学) ○内海 肅 (東京電機大学)

.....
(賛助会員1社1口) ○日立ビルシステム

.....
正会員：2654名
準会員：95名
賛助会員：172社199口
公共会員：23口

行事案内

●第339回事業所見学会（本部）

テーマ：マーケットに長く愛され続けている“お口の恋人ロッテ”のチョコレート工場の秘密

日時：2009年3月24日(火)15:00～17:00

見学先：(株)ロッテ 浦和工場

定員：22名（会員優先）

参加費：会 員2,500円 非会員3,500円
準会員1,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込締切：3月23日(月)到着分

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第341回事業所見学会（本部）

テーマ：製品事故の再発防止・未然防止に役立てるNITEの製品事故情報の活用

日時：2009年4月14日(火)14:00～17:00

見学先：(独)製品評価技術基盤機構(NITE) 東京都渋谷区西原

定員：30名（会員優先）

参加費：会 員2,500円 非会員3,500円
準会員1,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込締切：4月13日(月)到着分

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第89回研究発表会（本部）

日時：2009年5月30日(土)・31日(日)

会場：日本科学技術連盟 東高円寺ビル
プログラム：（予定）

・5月30日(土)

10:00～11:10

チュートリアルセッションA

「日常管理の基本と実践」

久保田洋志氏（広島工業大学）

11:15～12:25

チュートリアルセッションB

「デンスーにおける技術者魂」

今枝 誠氏

((株)デンスー技研センター)

13:30～17:45 研究発表会

18:00～19:30 懇親会

・5月31日(日)

10:00～16:00 研究発表会

参加費：

チュートリアルセッション・研究発表会

会 員6,000円（締切後6,500円）

非会員11,000円（締切後11,500円）

準会員3,000円

一般学生4,000円

研究発表会のみ(1日参加/2日参加とも)

会 員4,000円（締切後4,500円）

非会員8,000円（締切後8,500円）

準会員2,000円

一般学生3,000円

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

懇親会

会 員・非会員4,000円

準会員・一般学生2,000円

申込締切：2009年5月20日(水)

申込方法：同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●The 7th ANQ Quality Congress

テーマ：Prosperity through Quality

- The ANQ Way

日時：2009年9月15日(火)～18日(金)

会場：早稲田大学 大久保キャンパス

参加費：発表者

early bird \$100（締切後\$150）

発表者以外

early bird \$150（締切後\$200）

early bird締切：7月15日(水)

詳細：順次、ホームページでご案内いたします。

<http://www.anq2009.org/>

事務局連絡先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル内

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯:090-9128-7979

中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1

白川ビル別館

(財)日本規格協会 名古屋支部内

TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25

(財)日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org

事務局からのお知らせ

「JSQC選書（社団法人日本品質管理学会監修）」好評発売中

●JSQC選書1

書名：Q-Japan－よみがえれ、品質立国日本

著者：飯塚悦功

●JSQC選書2

書名：日常管理の基本と実践－日常やるべきことをきっちり実施する

著者：久保田洋志

●JSQC選書3

書名：質を第一とする人材育成－人の質、どう保証する

編著：岩崎日出男（共著：澤田潔・武石健嗣）

●JSQC選書4

書名：トラブル未然防止のための知識の構造化

－SSMによる設計・計画の質を高める知識マネジメント

著者：田村泰彦

判型等：四六判、並製本、152ページ

定 価：1,575円（税込）→ 学会員特典価格：1,260円（税込）

申込方法：ホームページより会員専用注文書をダウンロードし、FAXにてお申し込みください。E-mailでも受付しています。

http://www.jsqc.org/ja/kanren/jsqc_sensyo.html

申 込 先：本部事務局 FAX 03-5378-1507 E-mail apply@jsqc.org

※書籍は請求書を同封して(財)日本規格協会から発送いたします。